



グループ通信

発行/ふれディアグループ本部 編集部

〒351-0022 埼玉県朝霞市東弁財1-3-4

朝霞台駅前ビル8F

全国相談窓口 ☎ 0120-116-017

こんにちは、ふれディア通信編集部です。新茶の美味しい季節となりました。清々しい爽やかな香りと旨み、皆さんはもう楽しめましたか？さて、いつものゴールデンウィークであれば、お出かけの予定を考えてわくわくするところですが、今年は自宅でのんびり過ごされるという方も多いと思います。そんな方には新茶を片手に読書はいかがでしょう。連休が多いこの時期は、実は本が売れやすい時期でもあり、書店ではおすすめ本の紹介や並べ方にも力が入ります。最近、書店員さんの手作りポップや本屋大賞のノミネート作品、大賞受賞作品など、本を選ぶ時に参考になるものがたくさんあるので、本屋に足を運ぶこと自体が楽しい時間になりますよね。ジャンルを問わず、本が一番売れる時期というのは年末年始なのだそうです。3月から5月にかけては新生活に向けてのマナー本やビジネス関連などの実用書、連休に向けてアウトドア関連の本が大きく売れ行きを伸ばすそうです。ちなみに、昨年の年間売上総合ランキング1位は「人は話し方が9割」(永松 茂久/著)という実用書。同じジャンルから「よけいなひと言を好かれるセリフに変える言いかえ図鑑」(大野 萌子/著)も総合9位にランクインするなど、対面でのコミュニケーションの機会が減り、職場や学校だけでなく友人や家族ともなかなか会えない状況で役立つ実用書が一年を通じて売れたようです。たしかに直接顔を見て話す表情や声のトーン、しぐさからなんとなく伝わるニュアンスが、メールや電話だとなかなか伝わらず言葉選びが難しくなりますよね。そして2位はスマートフォンが人間の脳に及ぼす影響を説いた「スマホ脳」(アンデシュ・ハンセン/著 久山 葉子/訳)。自粛生活が長くなり、スマートフォンなどのデジタル機器を使う時間が増えがちなので、改めてデジタルなものとの付き合い方を考える人が増えたということなのでしょう。3位は昨年、芥川賞を受賞した「推し、燃ゆ」(宇佐見 りん/著)だったそうです。個人的には“推し”という言葉が本のタイトルになるほど浸透していることに驚いたのですが、若い作者の視点から描かれた作品も面白そうです。本を読みたいけれど何を読むか悩んでしまう方は、こういったランキングを参考にしてみませんか。

ふれディア通信編集部

幸福の前ぶれ? ラッキージンクス&アンラッキージンクス

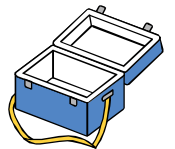
不幸の予兆?

今月のジンクス

「釣りにまつわるジンクス」



春の陽気に誘われ魚釣り^{かつ}が楽しい季節になりました。釣り人や漁師はゲンを担いだり、ジンクスを大切にすることが多いといいますが、釣りにまつわるジンクスにはどのようなものがあるのでしょうか？まずは、「クーラーボックスは大きいものを持っていくとさっぱり釣れず、小さいものを持っていくとよく釣れる」というもの。用意周到な時ほど成果がなく、準備不足の時ほど意外と成果があがるという、これは釣りに限らず“あるある”な話かもしれません。また、「梅干しを持っていくと釣れない」というジンクスも。これは抗菌作用のある梅干しをお弁当に入れると“食あたりにならない”、つまり「あたらない」=「釣れない」から来ているジンクスのようです。また、アメリカでは「リールに紙幣を挟み込むと釣果がある」とか、「ルアーにやさしく話しかけると釣れる」といったジンクスもあるそうです。釣りに出かける際はちょっと意識してみてください。



日本や世界には、さまざまなジンクス・迷信・言い伝えがあります。ただし、ジンクスはあくまでもジンクス！アンラッキーなジンクスが起きても科学的な根拠はありませんのでご安心ください。